

## JISA 人材フォーラム開催！

『IT 業界の働き方を考える～長時間労働改善と働き方改革のコツを伝授します！～』

平成 28 年 2 月 23 日(火)、東京・東銀座の JJK 会館 2 階ホールにて、JISA 人材フォーラム「IT 業界の働き方を考える～長時間労働改善と働き方改革のコツを伝授します！～」が、開催された。企画運営はワーク・ライフ・バランス推進コミュニティ（座長：山谷明子 コムチュア(株)人事総務本部長）により開催された。プログラムは 2 部構成



になっており、第 1 部では先進事例紹介（会社事例、チーム事例、個人事例）の講演が行われた。第 2 部では情報交換会が行われ、会場参加者はグループディスカッションによる悩みの共有や解決策について話し合った。参加者は、第 1 部の先進事例紹介が 112 名、第 2 部の情報交換会が 61 名だった。

開会にあたり、山谷座長より「企業にとって『長時間労働』『働き方改革』は問題視されており、取り組まれていることかと思えます。非常に大きなテーマなので、今日のフォーラムですっきり解決するとは思っていませんが、この会で働き方改革のヒントや第 1 歩を踏み出せるような意識改革を見つけてもらえたらと嬉しいです。」との挨拶があった。

### 第 1 部：先進事例紹介

4 つの事例紹介が行われた。

最初は、JFE システムズ(株) 高野氏より、「ワーク・ライフ・ハッピー！～出来ることからやってみよう～」と題した会社事例の講演が行われた。JFE システムズ(株)は、ダイバーシティの推進を経営課題に掲げ、積極的にワーク・ライフ・バランスの向上や女性のキャリア形成に向けた取組を行っている。男女共に活躍し続けられる企業を目指す姿が評価され、平成 27 年度東京労働局均等・両立推進企業奨励賞受賞を受賞した。それらの取り組み内容について詳細を紹介した。



次にチーム事例として、NEC ソリューションイノベータ(株)高橋氏から、「“顔” 合わせ、“心” 合わせ、“力” 合わせた改善活動」として、各拠点の社員が自主的に行ったチームとして取り組むことが出来る事例の紹介を行った。『時間外勤務届・承認システム「It's かえる君」の導入』や『WLB表彰制度』、『休暇取得奨励日の設定』といった手作り感溢れるシステム・制度と共に、社員の意識変化について述べた。

続いて、個人事例（2 件）の紹介に移った。まず、(株)NTT データ CGS 飯塚氏より「“担う覚悟”と“信用貯金”で Win-Win に」と題した講演が行われた。特に仕事においても育

児においても責任を持つ覚悟をすること、そのためには社内でも思いやりを持ってWin-Winの関係を作る姿勢をとることの重要性を述べた。そして、社内や家庭内で報告・連絡・相談といった基本的なコミュニケーションを取ることや、日々の仕事でも成果を上げること、そして相手の都合も受け入れる心を持つことで溜まる『信用貯金』の大切さについて訴えた。



最後に(株)シー・エス・イー小口氏より、「被災地のボランティア活動で見たこと」として、東日本大震災での被災地ボランティア経験から感じた仕事との相乗効果について講演があった。ワーク・ライフ・バランスでは育児や介護に目が向きがちだが、こちらは個人活動との両立を図った興味深い事例であり、小口氏は自身が行っているボランティア活動について、①労働時間短縮への動機付けとなる。②限られた資源で最大の成果を発揮出来るようになる。③「PDCA」を繰り返すことで、俯瞰的視野、チームマネジメント力が身につく。④「様々なニーズ」に応えるため、要求分析力が鍛えられる。⑤「人間関係」が劇的に広がるため、語彙力、コミュニケーション能力が向上する。といった利点を挙げ、仕事以外の活動をすることで仕事へも効果のある気付きを得ることができると述べた。

## 第2部：情報交換会

休憩をはさみ、山谷座長のリードによる情報交換会が行われた。テーマは「身近な課題」。グループごとに参加者が抱えている悩みを共有し、その解決策を『個人やチームで出来ること』と『会社の制度を活用して出来ること』の2つの視点で議論した。また、途中で全体発表の時間を設け、より多くの意見を持ち帰れるように設定した。



開催後アンケートでは、自身の悩みをグループ単位で共有したことで、「すぐにでも活用できるような改善案を持ち帰ることが出来た」「講演では聴くことの出来ないような細かい取り組みについて知ることが出来た」といった感想が上がっている。



なお、フォーラムの詳細についてはJISA 会報（4月発行）で紹介する予定である。

（増田）